

みんなで育てる「たいしの子」vol.11

幼小中一貫教育だより

太子町幼小中一貫教育地域フォーラムを行います！ (11月10日まで申込み受付中)

地域フォーラムでは、町がめざす教育について、保護者、地域のみなさまと教職員で共有するとともに、これからの展望をともに探ります。

【と き】 11月17日(金) 午後3時15分～4時50分

※受付は、午後3時～。

※開門時間は、午後2時55分。

※開門時間以前は、学校の敷地内へ入ることはできません。

【ところ】 町立中学校体育館

【内 容】 一部：幼小中一貫教育の取り組み報告

二部：講演会『やってみたい子育てへの転換～非認知能力を育む子どもとの接し方～』

【講 師】 岡山大学 准教授 中山芳一 さん



▲中山 芳一さん

非認知能力研究の成果を基に、成長期における子どもと接する際の効果的な「非認知能力」を刺激する方法や、子どもが自ら気づき学ぶ力を育むヒントを提案。子どもの成長を最適にサ

ポートするための大人の実践的知識の共有をめざします。

【対 象】 町内在住、在勤、在学の人など
(小学生以下保護者同伴)

【申 込】 11月10日(金)までに、申込みフォームよりお申込みください。

申込みは、こちらから▶



※事前申込制（予約のない人の参加はできません）。

※駐車場はありません。原則、徒歩・自転車・バイクでお越しください。

※下靴を入れて頂く袋・上靴（スリッパなど）をご持参ください。

令和5年度の町立中学校の取り組み 「学校は何を学ぶところ？」 ～学校について関わる全員で考え、力を合わせる教育実践～

「私たちが毎日通う『学校』って何だろう？」「どうして『学校』があるのかな？」について生徒会を中心に生徒全体で考える取り組みを2年前に行いました。生徒・教師が話し合いを重ね、最終的に「学校はMSP「M（目に見えない）S特別な（special）P（プラス）＝（非認知能力）」を学ぶところ」という結論になりました。目に見えるわかりやすいプラスだけではなく、一見、マイナスに思うこと（悩みやトラブルなど）も、とらえ方や意識次第で自分のプラスになるととらえ、学校生活の様々な出来事とおしてMSPを学ぶ場所であるという結論になりました。



そして、MSPを学ぶ学校は生徒、教師や様々な人がいて成り立っており、それら全員で話し合う場を作りたいとの思いで太子中学校検討会議を設けました。検討会議では学校内の校則、行事、生活などについてこれまで取り上げ考えました。今後、保護者の皆さんに関わってもらうことも考えています。検討会をとおしてみんなが通う学校について、関わる全員で一緒に考え、力を合わせていくような場にしていく予定です。

令和5年度の町立幼稚園の取り組み うきうき・わくわく・こころはずむ幼稚園

町立幼稚園の園児が非認知能力を高めていく3つの取り組み

- 1、園児がわくわく・どきどきする気持ちで遊びに熱中する中で、主体性を身につける。
- 2、自然や身近な動植物に直接触れる体験活動に重点を置き、その中で子どもの好奇心や探求心を高める。
- 3、3歳児、4歳児、5歳児の学年の枠を外し、異年齢での活動を大切にする。

町立幼稚園では、普段の活動の中で子どもたちが感じる「なんだろう？」「ふしぎだなあ？」「やってみたいな！」という気持ちを大切に日々保育実践を行っています。子どもたちの質問や疑問にすぐに答えるのではなく「どうしてだろう？」と一緒に考えることで子どもたちが、考える楽しさ、答えを見つける喜びを味わい、もっと知りたいという意欲がどんどん湧いてくる保育をめざしています。

その為には、子どもたちが中心となって話し合いながら、活動を進め、学年の枠を超えて教え合える関係を築くことが重要であると考えています。

5歳児の取り組み 自然との関わりを通して学ぶこと～子どもたちの挑戦と工夫～

ミカンの木にアゲハチョウの幼虫を発見した子どもたちは「葉っぱいっぱい食べてる！」「捕まえたらかわいそう」と、捕まえずに、そのまま木で成長していく様子を見守ることにしました。日が経つにつれ、黒くて小さかった幼虫が、大きな緑色の幼虫へと変化したことに驚いた子どもたちは、いつしか毎日、幼虫を見に行くようになりました。しかし残念なことに、雨が続いた連休明け、幼虫はいなくなっていることに気づいた子どもたちは「雨が駄目だったのかな？」「逃げたのかな？」と残念そうな様子。

後日、別のアゲハチョウの幼虫を発見した子どもたち、「今度は雨から幼虫を守ってあげたい！」と気持ちが高まりました。そこで、みんなでどうしたらよいかを話し合い、「虫かごで飼う」という意見も出ましたが、最終的に「雨が苦手な幼虫の為に、屋根を付けよう」という意見にまとまり、子どもたちと雨との戦いが始まりました。一旦、屋根作りは成功したものの幼虫が屋根のない所に移動してしまうなど、試行錯誤の日々は続きました。子どもたちはあきらめず、話し合いをとおして工夫をこらして取り組みを進めました。



教えて!とくどめ先生! テーマ「子どもは大人を映す鏡」

これまで、子どものプロセスから見取り、価値づけをしていく重要性を述べてきましたが、価値づけで終わりかというところではありません。それを子どもたちに伝えてあげる、フィードバックが大切になるというお話をしてきました。フィードバックは、いつどのタイミングで伝えるのかで効果が変わってきます。すぐさまその場でフィードバックが有効的な場面もあれば、タイミングを見計らって適時的なタイミングでのフィードバックも効果があります。どのタイミングならばもっとも子どもの心に響くかを意識して、行っていくことが大切になってきます。ぜひ、豊かに子どもたちを見取ったうえで、タイミングを駆使した確かなフィードバックを実践されてみてください！

子どもは大人を映す鏡と言われることがあります。まさに私もその通りと思っています。子どもに非認知能力の向上を求めらるのであれば、私たち大人も非認知能力を向上させ続けていかなければなりません。その大人の姿こそ、子どもたちにとって一番の教科書であり、最高のお手本となっていくと思います。子どもが価値を共有したいと思う大人になっていくことが何より大切です。かっこ悪い大人に、子どもは本当の意味で心を開くことはないでしょう。だからこそ、自分自身に問い返し、成長し続けていく大人でありましょう。大人が変われば子どもはきっと変わります。明るい未来をみんなで一緒に創っていきましょう。

教えてとくどめ先生のコーナーは、今号で最後となります。1年間ありがとうございました。

◆問合せ 教育総務課 ☎98-5533